Ⅳ　教育局別の状況

(1) 平均正答率

○　府内各地域の状況を教育局別の平均正答率で示しています。

○　各教育局別の国語、算数・数学の平均正答率は、小学校においては概ね全国平均を上回っていますが、教科毎にみると一部にやや課題が見られます。中学校においては各教科とも全国平均に近い値ですが、一部にやや課題が見られます。

小学校	国　語		算　数	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
全国	72.9	57.8	77.6	47.2
京都府	74.2	59.4	79.9	48.6
乙訓	78.5	61.5	82.8	50.2
山城	73.2	57.7	80.0	48.0
南丹	73.3	58.2	79.8	48.4
中丹	75.3	61.5	82.3	50.3
丹後	74.7	58.8	80.0	48.0

中学校	国　語		数　学	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
全国	75.6	66.5	62.2	44.1
京都府	75.8	67.2	63.3	45.0
乙訓	77.6	70.0	66.8	49.4
山城	74.9	65.6	63.0	44.1
南丹	74.7	65.4	61.0	41.7
中丹	75.3	65.8	61.0	42.4
丹後	76.3	67.6	63.6	43.0

(2) 児童生徒の学力状況（正答数分布状況より）

○　次の正答数分布状況グラフは、児童生徒をその正答数によりＡ層からＤ層までの４群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○　各教科・各年度の平均正答数以上の児童生徒をＡ層（上位）、Ｂ層（下位）、平均正答数未満の児童生徒をＣ層（上位）、Ｄ層（下位）にそれぞれ二分割して分析します。

　例えば小学校国語Ａの出題数は15問あり、全国の平均正答数が10.9問です。したがって、０～５問がＤ層、６～10問がＣ層、11～12問がＢ層、13～15問がＡ層となります。